

「ライフ・ライン」6月10日放送▶

北海道福音放送協会

★世の光だより

yonohikari



『性同一性障害を乗り越えて』



安海 靖 郎

性同一性障害がずいぶん知られるようになってきました。

著名な人が自分もそうだと公にしたり、ドラマにもなりました。しかし、実際にはなかなか理解されにくい障害です。嗜好とか、同性愛、女装趣味というのとは違うんですね。精神、心の病気と言われているんです。

私の友人のMさんはスポーツマンで、結婚して子どもにも恵まれました。しかし仕事で海外駐在中、ストレスの故でしょうか、発病し、心がだんだん女性になっていったのです。

これは想像しにくいことですね。たとえば背広を着る、ネクタイをつける、男性用のトイレに行くという普通の行動が大変苦痛になる。ちようど女性が男性のトイレに行くような異和感を覚え、緊張し、苦痛になるのです。ですから、

女性の下着をつけ、女性的な洋服を身につけないと、心が不安になり、情緒不安定となって、耐えられなくなる。

そんな苦しみの中で会社も辞めさせられてしまいました。

そんなとき、現地の部下の一人に教会に誘われました。礼拝中、大勢の人が賛美歌を歌っているとき、不思議な体験をしました。

心が熱くなり、涙がとめどなく流れ、自分のそばにイエス様がいてくださるといふうに感じたそうです。

そして、帰国して東京の私たちの教会でバプテスマ、洗礼を受けました。その後、不思議と大きな企業に再就職でき、元気に働いているのです。もちろん今も、女性ホルモンを打ちつつ、それをやめると、心が分裂、崩壊するような耐えられない苦痛が起こります。

先日、私と家内が久しぶりに、以前赴任していたインドネシアに行きました。このMさんも同行し

4月利用回数 607回

3分間の
テレホンメッセージを
(羽鳥、村上、福井、安海、関根
各先生がおはなしします)

でんわ世の光で

(011)

612-0869

お聞き下さい

24時間いつでも聞けます



ました。日系人の方たちの礼拝式で、Mさんはこんな体験談を話して、多くの人に感動を与えました。「信じていただけででしょうか。私は性同一性障害になり、体は男でも心は女性です。自殺まで考えました。でも自分は男でも女でもない、神に愛されている。私」なのだ。悟ることができました。キリストの愛によって救われた神の家族なのだ。悟ってからは、神の愛とキリストの救いを人に伝えるために仕事をし、生きています」

五十名ほどの日本人、インドネシアの方々、心から感動し、思わず拍手が起こりました。キリストによる新生のドラマです。

「変わらない約束」より

